

# 防災チェックポイント

『毎日の備えが明日に繋がる』

## 防災対策特別委員会

委員長 尾 元 武

まだ記憶に新しい昨年の西日本豪雨や、大島大橋損傷事故に伴う40日間の断水は、本町の災害時のウィークポイントを如実に表わしました。

その教訓を生かし、新年度予算においては非常時に備え、旧簡易水道施設の揚水試験及び水質検査費が計上され、消防団に対しては水防団としての活動時の安全の確保のために雨具購入配布費が予算化されたところでです。

災害が発生してから何をするかでは遅いときもあります。発生する前にしっかりと準備しておく必要があります。

スポーツは、試合当日ではなく試合に至るまでの練習の段階で99%決まると云われており、防災にもそれが当てはまります。

災害は忘れた頃にやって来るものではありません。あらゆる災害が毎年のようにやってきます。

今、出来ることは何か。東日本大震災から8年、本委員会は防災・減災対策について今一度基本に振り返り情報を発信してまいります。共に研鑽を重ね、今一度、自分の命は自分で守る「自助」、自治会や自主防災組織の「共助」について真剣に見つめ直すうではありませんか。



★今回は『率先非難』について紹介します。

## 「率先避難者になろう」

★災害時に「逃げる姿」は一つの「情報」になる

一人が逃げ出すことによって、周りには不特定多数にも危険が伝わります。

まず自分が率先して避難者となることで、自信の安全を守るだけでなく、同時に周囲の人々を助けるといった発想です。

危機が迫ったときに逃げるのは決して恥ずかしいことではありません。危機が迫るといった意識がある人が逃げる姿そのものが、周囲の人にとっても生き延びるためには「逃げなければならぬ」という情報になります。



★災害時「自分だけは安全」と思ってしまう心理

防災でやっかいなのは、危機が迫っても「自分だけは安全」と思ふ心の壁です。

それに対して率先避難者は「誰かが逃げ始めれば、他の人も一緒に逃げ出す」という心理から導かれた方法です。

★どんな警報システムも万全ではない

自然災害は常に「想定外」に起きるもので、人間がいかなる警報システムを作っても「間に合わない事態」はどうしても避けられません。自然は人が推し量れない巨大な存在で完全に対処できるものではないことを認識しましょう。

